

内科

済生会横浜市東部病院は、横浜市の中核病院であり、救命救急センターなどを中心とした急性期医療や高度専門医療を中心に提供する病院です。救命救急センターと総合診療センターでは内科医が経験すべき高度な救急疾患から common disease に至るまで豊富な症例を経験することができます。地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療にはサイバーナイフやロボット手術などの先進的な医療機器を備えて最新の医療を行っています。また、地域医療にも精力的に取り組んでおり、連携バスなどによる病病連携や病診連携を実施し、病院と診療所の顔の見える関係を重要視しています。患者中心の質の高い医療を地域に提供できるように取り組んでいます。

当院内科の診療科は7科ありますが、疾患別センター制を導入しており、一人の患者さんを内科系と外科系の医師が連携し治療を行っています。

●循環器内科（心血管センター）

16名の医師が在籍しており、インターベンション治療では全国トップレベルの治療水準で、24時間体制で治療を行っています。大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療（TAVI）も行っています。



TAVI

●消化器内科（消化器センター）

内視鏡治療や肝癌治療、ウイルス性肝炎の治療を多数行っています。24時間、消化管出血の止血も行っています。



内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）検査



下部消化管内視鏡検査



●呼吸器内科（呼吸器センター）

がん拠点病院として悪性腫瘍の先端治療から緩和治療に至るまで多数の患者さんの治療を行っています。高齢化社会を反映し、多数の肺炎患者を診療しており、また喘息などの所謂 common disease も多く経験することができます。



X線透視下気管支鏡検査

●神経内科（脳神経センター）

脳卒中ケアユニット（SCU）を備えており、横浜市脳血管疾患救急医療体制の基幹病院であり、24時間365日急性期脳卒中の診療体制を確立しています。一方、神経救急疾患だけでなく認知症まで広くカバーしています。特に、メモリークリニックを開設しており、認知症疾患診療センターの認定を受けています。



認知症外来



高齢者ケアチームの病棟回診



●腎臓内科（腎泌尿器センター）

慢性腎臓病から透析導入に至るまで幅広い腎疾患に対応しており、腎生検も多数行っています。また、腹膜透析導入を積極的に行っています。



腎生検



病棟カンファレンス

●糖尿病・内分泌内科（糖尿病・内分泌センター）

糖尿病入院患者数は全国有数の患者数です。

手術時の血糖管理や低血糖や高血糖による救急医療も多数経験できます。

原発性アルドステロン症患者も非常に多く、稀な内分泌疾患も多数経験できます。



糖尿病教室や公開講座



甲状腺穿刺による生検

●総合内科（総合診療センター）は感染症中心の病棟でのコンサルトや総合診療センターの外来を担当しています。

●血液内科は、東邦大学から派遣の非常勤医が週 1 回診療を行っており、その際にコンサルテーションを受けています。アレルギー・膠原病・リウマチは東京大学医科学研究所附属病院から派遣の非常勤医が週 1 回診療を行っています。

●亜急性疾患、慢性疾患、在宅医療に関しては当院から 5Km 横浜寄りに位置する済生会神奈川県病院 内科と連携して診療しており、医局は一体化しており、人事交流が密に行われています。



内科統括責任者 比嘉 真理子

○診療実績

2018年度 実績	入院患者実数 (人/年)	外来患者数 (延人数/年)
消化器内科	1,195名	14,606名
循環器内科	3,133名	24,213名
糖尿病・内分泌内科	936名	13,362名
腎臓内科	402名	6,305名
呼吸器内科	975名	12,065名
神経内科	562名	7,701名
総合内科	8名	8,622名
救急科	1,249名	11,129名

○専門医

日本消化器病学会専門医 8名 日本肝臓学会専門医 4名
日本内分泌代謝科専門医 2名 日本糖尿病学会専門医 3名
日本神経学会専門医 3名 日本呼吸器病学会専門医 7名
日本循環器学会専門医 7名

○連携施設名

当院が基幹施設として：済生会神奈川県病院、汐田総合病院、東京大学医科学研究所附属病院
当院が連携施設として：横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、東邦大学大森病院、
東邦大学大橋病院、慶應大学病院、鋼管病院、日本医科大学病院

◇先輩からのメッセージ◇

初期研修を東京の総合病院で3年間行い医師としての基礎を積んできました。その後は、インターベンション治療の基礎を学びに有名な high volume center である東部病院の循環器内科の門を叩き、現在に至ります。東部病院では全国から心臓や虚血肢や弁膜症のカテーテル治療を希望する患者が集まってきており、症例数は日本で10本の指に入るほど多く、また日本有数のテクニックを持った指導医が沢山います。カテーテル手技の指導や毎朝のカンファレンスや回診で目の前の患者についての指導をいただくだけでなく、多くの症例数を生かして学会発表や論文投稿といった大学病院以外ではなかなか学ぶことができない学術的な部分も経験することができます。国内学会のほかにも、アメリカやヨーロッパでの発表の貴重な機会があり、日々刺激になっています。何より周りにいる循環器医の高いモチベーションが自分にとっての一番の活力となっています。

(専攻医2年目)